国大化学会および前身である電化材化会に多大な貢献をしていただいた萩原忠臣氏，石井浩氏を失ってしまいました．ここにお二人方の追悼記事を企画させていただきました．

萩原さんは本会の顧問のほか本会の前身の一つ電気化学科同窓会時代から永らく東海支部の幹事を勤めてくださり，100 歳のご高齢になられても，毎年総会に出席くださいました．本会や大学への経済的支援もされました．

萩原忠臣氏のご略歴

明治 43 年 12 月（1910 年）12 月 15 日生　北海道夕張市　出身
昭和 5 年 3 月（1930 年）　函館師範学校卒業
昭和 8 年 3 月（1933 年）　横浜高等工業学校（現・横浜国立大学）電気化学科卒業
昭和 10 年 6 月（1935 年）　安立電気株式会社（現アンリツ株式会社）入社
昭和 23 年 3 月（1948 年）　萩原電気工業社を創業
昭和 33 年 12 月（1958 年）　株式会社萩原電気工業社，代表取締役社長に就任
平成元年 3 月（1989 年）　萩原電気株式会社（昭和 40 年社名変更）代表取締役会長に就任
平成 12 年 6 月（2000 年）　最高顧問に就任
これまで長い間，横浜電化会，電化材化会の東海地区幹事
平成 15 年 10 月　電化材化会顧問
（平成 17 年より国大化学会顧問）

萩原忠臣さんのご逝去を悼む

横浜国立大学 学長　鈴木　邦雄

萩原忠臣さんが平成 23 年 2 月 25 日（金）にお亡くなりになったことをお聞きしました．萩原忠臣さんのご冥福を心からお祈りし，謹んで哀悼の意を申し上げます．

萩原忠臣さんとは，副学長の時にはじめてお会いし，学長に就任した平成 21 年からは，主として同窓会関係の行事で度々お目にかかり，お話しをするようになりました．萩原さんご出身の国大化学会の役員の方からのお話ですと，何十年にわたって毎年名古屋から同窓会の総会に出席され，その時に必ず

伊勢の「赤福」をお土産に持ってこられるという気配り深い方であったと聞いております．ご老体でありながらいつも矍鑠としておられるように思えたので，お歳をお聞きしたところ，もうすぐ100歳になられるとおっしゃったのでビックリしたことを覚えています．

横浜国立大学は，開学の源流となる教員養成所から137年，新制国立大学として62年が経過し，法人化後8年目を迎えました．その間，天変地異の発生や時代の変遷の中，社会で活躍できる人材の輩出を先導的に果たし，研究の分野でも世界に通用する多くの成果を創出してきました．そして現在は，「実践性」，「先進性」，「開放性」，「国際性」を4つの精神として大学の憲章に掲げ，人類・社会の発展のための寄与，地域社会との連携，国際的な活動の推進を掲げて努力・研鑽を続けているところです．今回の東日本大震災に関しても，被災した皆様への様々な支援に留まらず，復興への学術貢献・社会貢献を強化しています．

同窓会と大学とは法人化以来緊密な関係を結び，各部や学府の同窓会を糾合して横浜国立大学同窓会連合を発足させました．最近では，学生支援活動も双方で積極的に進めており，大学･同窓会間の交流も活発化してきております．大学と同窓会連合の共催行事として，毎年10月～11月にホームカミングデー（HCD）を開催しておりますが，萩原忠臣さんはご高齢を押して毎年のように参加してくださいました．昨秋の行事にも出席され多くの友人たちと語らっておられた姿が印象に残っております．

この度の御逝去はご親族やご友人，最高顧問をしておられた萩原電気株式会社の関係者はもとより，本学のためにも惜しまれてなりません．なお，萩原忠臣さんからは飯田前学長の時代に多額のご寄付を頂いておりますことを申し添えると共に，数多くのご支援に改めて御礼を申し上げたいと思います．

萩原忠臣さんを偲んで

村松　四郎（昭和17年電化卒）

昭和34年に電気化学科を出られた村田和雄さんは70歳になられたのを記念して，7.8 m のヨットで太平洋を単身サンフランシスコまで往復された有名な方です．平成19年の国大化学会総会でそのお話をお聞きした時，「村田さんは80歳になられたら何をやりたいですか」と質問したら，笑いながら空へ行きたいですねと答えてくれました．その時，村田さんが「名教自然」というのは非常に良い言葉だから世界に広めようということを話され，私は，煙州先生の逝去後，半世紀以上も過ぎて名教自然という言葉に関心をもたれている方達がいるということに驚き，非常にうれしく思いました．

その会の時，偶然に同じテーブルに名古屋の萩原大先輩がおられたので，私がメモ書きで「私は10月に四国の煙州先生の墓参に行きます」と書いて渡しましたら，すぐ萩原さんから「私も行く」と返信されました．当時97歳の萩原さんと工業会の世話をしている内田條治さんと3人で四国中央市にある煙州先生の墓参に行きました．お墓は相当な丘の上にあり高い石段が連なっていて，ご実家の方は墓所の入り口でお参りして頂く考えでおられたようですが，100歳に近い萩原さんが真っ先に登り出し私達が後に続くという有様でした．私たちも全くびっくりしました．ご自分で車を運転して毎週ゴルフに行かれているということもその時伺い羨ましかったです．

安立電気石川工場長をされていた時終戦になり，会社を退社されて2坪の店でラジオの修理店を奥様と2人で始められてから序々に企業化され，今日の大をなすまでのご努力は全く大変なものであったと思います．会社を上場される時「株価が3,000円以上になったので，社員持株制でやってきたため，億を超す資産を持った社員が相当いたよ」と喜ばれていたのを思い出します．横浜国大のこともいつも心からいろいろと協力してこられ，秋のホームカミングデーの時は毎年名古屋から出席されました．いつも「今年が最後かも」と言い十人余りの後輩を集めて夕食等を共にし，また励ましてもいただきまし

た．私達が費用を払おうとすると，何時の間にか全部支払をすませて私達も恐縮したことが何度もありました．

萩原さんのお元気な時に「萩原さんを囲む会」を名古屋でやりたいと考えて，米屋勝利さんや煙州会のメンバーと計画して萩原さんに喜んでいただこうという計画が実現できなかったことは誠に残念至極でした．萩原さんは次のように4回の大震災を経験されています．

大正 12.9.1　　関東大震災　M7.9（東京都神田で中学生の時）
昭和 19.12.7　　東南海　　M7.9
昭和 21.12.21　　南海　　M8.0
平成 7.1.17　　阪神　　M7.3

今回の3月11日の地震の前2月25日に逝去されましたが，東北の惨状を見ないでよかったのではないかと思っています．

在りし日の萩原忠臣様との思い出

三原　洵（昭和33年2部応化卒）

今年の1月13日（木），私は横浜工業会関西地区のOB会（通称二木会）に参加する途中，名古屋で下車して，予めお約束しておいた萩原大先輩と萩原電気株式会社別館の最高顧問室で2人だけで対談する機会に恵まれました．しかし，当日は気温も低く体調も優れない中を，昨年から常宿されておられた愛知県日進市に所在するシルバーホームから遠路車で会社までお出掛けいただき本当に頭が下がる思いでした．

萩原電気株式会社は昭和23年に明治43（1920）年生まれの忠臣様が創業された会社であり，戦後の激動期を乗り越えて，いまや日本の自動車・電機工業界にとってなくてはならない電装・電機部品の供給企業（JASDAQ上場）となっております．

当日，忠臣様は会社がこれだけ発展できたのは偏に国大卒業生の先輩・後輩のお陰だと強調され，最近は同窓生同志の絆が次第に薄れて各地区のOB会の参加も年々減少していることを大変嘆いておられました．そして東海地区の参加者名簿を私に手渡し，自分がなくなった際の連絡者などを事細かに教えていただき，村松四郎（電化・昭17卒）さんにも宜しく伝えるように仰いました．

ご自身の身体の現状についても足首のひどい浮腫をズボンをめくり上げて見せていただきました．咄嗟に私が人工透析をお奨めしたところ，もうこの年まで生きながらえてきただけで十分で，延命治療を

する考えがないことをきっぱりと申されました．時折，襲ってくる悪寒に寒い寒いと身震いをされていましたので，伊藤秘書にその旨ご連絡をして早々に失礼しました．それから，40 日後，心不全で逝去されたとの訃報に接し，改めて偉大な大先輩を失ったことに気づき涙が止めどなく流れました．

萩原忠臣様との思い出は数々あります．若輩の私が当時雲の上のような存在であった大先輩と親しくお付き合いさせていただくようになったきっかけは，数ある横浜工業会の OB 会に常連として参加しておられた席上で撮影した数多くのスナップ写真をお送りしたところ，ご礼状を添えてご本人のサイン入りの「萩原電気株式会社の五十年史」が送られてきたことに始まります．

中でも一番の思い出は 3 年前の 5 月に六郷会のゴルフコンペがあった後，桜木町から程近いところにあるスナックに阿部敏雄先輩（電化・昭 24 卒）から数人と共にお誘いを受けた際，初めてカラオケで美声を聞かせていただいたことです．また，4 年前の 7 月に山中湖のリゾートホテルに西田通弘先輩（電化・昭 18 卒），阿部先輩と共に 4 人で宿泊し，翌日，河口湖畔にある西田様のホームコースでゴルフを 1R 楽しんだ時のことです．なんと 96 歳のご高齢にありながら 108 のスコアでラウンドされたと記憶しております．その強靭なお身体は会社の創生記に大きな拡声器を電柱によじ上って数多く取り付けられてきたことによることを過日ご本人から伺いました．晩年最期まで杖をつかずエレベータにもお乗りにならずに階段を利用されておられたことが特に印象的でした．

後輩の一人として，生前に一方ならずお世話になったことに深く感謝し，心よりご冥福をお祈り申し上げます．

石井さんは平成になってから本会の前身の一つ電化材化会の会長を7年間勤められ，同窓会に貢献されました．

石井　浩　元会長のご略歴

昭和18年9月（1943）　横浜高等工業学校卒
昭和18年10月　東京芝浦電気(株)(現(株)東芝)入社
昭和47年5月（1972）　東京芝浦電気(株)　日野工場長
昭和51年2月（1976）　東京芝浦電気(株)　電気通信事業部次長
昭和53年1月（1978）　東京芝浦電気(株)　関西支社副支社長
昭和54年6月（1979）　東京電子工業(株)(現 東芝テリー(株)) 取締役社長就任
平成元年6月（1989）　退任
平成3年～9年（1991）　横浜電化材化会会長
平成22年7月7日（2011）　ご逝去

畏友　石井　浩さんを偲んで

伊藤　昌英（昭和18年9月電化卒）

石井さんとの昔の思い出を何か，と国大化学会の役員の堀先生にご依頼をいただき，遠い昔のことを思い出してみた．年を重ねると，最近のことより昔のことの方が何故かいきいきとしている部分がある．戦局が厳しい時代ではあったけれども，石井さんとの思い出はとても懐かしい．

出席表の順で言うと，石井，伊藤の順だった．それをいいことに，「おい，石井，頼む」と代返を頼んだのは数回どころではなかった．前にもう一文字つくくらいに真面目で，そしてひとの頼みごとを断らない石井さんは，いやな顔をせずに引き受けてくれた．石井さんは数学が得意だったと思うが，私はあまり得意ではなかった．

代返を頼んでまでしていたことと言えば，別の友人たちと一緒に横浜の山手でぶらぶらと散歩をしたりしていたのだから，始末が悪い．今更石井さんに代返の面倒をねぎらおうとしても，もう石井さんに

は会えない．

そんな不真面目な私が，後に大学の教員になって学生の代返を咎めるようになった．やはり大学の教員をしている愚息に矛盾を指摘されて，今更ではあるが汗顔の至りである．しかし石井さんは，会社を立派に勤め上げ，また電化材化会の会長を引き受けられるなど，真面目で面倒見がよいところは終生変わらなかった．

学校を卒業してから，お互い舘山にいたことがあった．石井さんは海軍の砲術学校，私は海軍の航空隊にいた．二回くらい会ったと思うが，その後は，また会おうと言って舘山で会うことはかなわなかった．そういう時代だった．

戦後はクラス会で毎年のように会っていた．関東・関西なので，そういう機会がないとなかなか会えなかった．近年体調を崩されたと聞いて案じていた．

思えば，同級生もたくさん戦死している．石井さん，お互いこの歳まで生き残って戦後を生き抜いたのは，何か目に見えない支えがあったのかもしれないね．

石井さん，またどこかで会えたら，もう代返は頼まないから，ゆっくり昔話をしよう．

どうぞやすらかに眠ってください．

石井　浩社長を偲んで

東芝テリー株式会社　湯山昌樹

石井社長は，昭和 54 年 6 月に当社の社長に就任されました．ご就任当時，世界経済はオイルショックにより深刻な打撃を受け，当社も会社再建の基礎固めを行っていた時期であり，ご就任当初から大変なご苦労をされました．石井社長はこのような状況の中で組織改革や体質の強化を図るとともに，東芝グループにおける産業用エレクトロニクス，特に映像システム分野におけるユニークな専門メーカーを目指す方針を打ち出されました．それまでも当社はビデオカメラや映像による計測システムなどで特色ある製品を開発し，業界でも注目されていましたが，より戦略的な目標として掲げることになったわけで，当社の現在の事業の礎は，石井社長が築かれたと言っても過言ではありません．

石井社長のもと当社は着実に業績を伸ばし，昭和 60 年度まで 10 年間連続増収増益という輝かしい記録を樹立しました．また，昭和 63 年度には目標としていた売上高 100 億円を達成するなど石井社長の経営手腕が如何なく発揮されました．石井社長は経営者としては厳しい方でしたが，社員一人ひとりのことを常に温かい目で見守ってくださいました．石井社長が多くの社員の仲人をされたことからもそのお人柄と人望の厚さを伺い知ることができます．

石井社長は年号が昭和から平成に変わった平成元年 6 月，10 年間務められた当社の社長を退任されました．退任されてから既に 22 年が経ちますが，石井社長が掲げられた方針は，今でも“お客様にご満足いただける映像システムソリューションを提供します”という当社の経営理念に生き続けています．

最後になりますが，謹んで哀悼の意を申し上げ，石井社長のご冥福を心からお祈りいたします．

【堀（昭 45・電化）補足】 湯山様は本会の会員ではありませんが，入社されて以来石井会長にお世話になったとおっしゃる東芝テリー株式会社総務部長の湯山様に東芝での最後の時期の石井会長を偲んでいただきました．

なお，東芝テリー株式会社の沿革は次のとおりです．昭和 25 年 2 月，集中排除法に基づく企業再建整備計画により，東京芝浦電気(株)（現(株)東芝）神戸工場が東芝から分離独立し，東芝第二会社「東京電気無線(株)」として発足．昭和 42 年，東京電子装置(株)との合併により社名を「東京電子工業(株)」に変更，平成 16 年に東芝通信システム(株)の監視カメラシステム事業を譲り受け，現在の「東芝テリー株式会社」に社名を変更．主に医療用・産業用カメラ，監視カメラシステム，各種検査装置等を製造販売．

石井　浩会長を偲ぶ

堀　雅宏（昭和 43 年電化卒）

石井会長は長く闘病生活を続けて来られましたが，昨年７月逝去されました．謹んで哀悼の意を申し上げますとともに，ご冥福をお祈りいたします．

石井会長は平成３年から９年まで７年もの間，藤森俊彦会長の後を継いで横浜電化材化会会長を勤めて下さいました．私が同窓会の常任幹事として石井会長にお仕えした日々を思い起こしつつ，故人をお偲び申し上げたいと存じます．

電化材化会では平成３年に入ってまもなく，藤森俊彦会長が退かれることになり，大学でずっと同窓会に携わって来られた小川忠彦先生が次の会長として高工の同級生で当時東京電子工業(株)（現，東芝テリー株式会社）社長を退かれていた石井会長に白羽の矢を立てられました．石井会長は長い東芝時代の後ようやく悠々自適の生活に入られていた矢先に助走期間なしに突然の同窓会長を受けて下さいましたが，後に小川先生が亡くなられた際に石井会長が書かれた追悼文からお二人は肝胆相照らす中であられたことを私は知ることができました．

石井会長は役員会での就任の弁で「私は現役社長でもないし，オーナー社長でもないから」とおっしゃっておられましたが，同窓会のために実に細かな気配りをして下さいました．私は大学に籍を置いていましたので，石井会長の７年間，庶務担当幹事としてお仕え致しましたが，石井会長のお人柄ゆえか，嫌な思いをしたことは一度もありませんでした．

私が，クラス幹事会で，出席者の方が皆発言していただけるようにグループに分かれてご意見をいただいてそれを最後にまとめる会議の運営方法を提案するときに逡巡していた私を励ましても下さいました．会長を退かれてからも２度も役員会に出てくださいましたが，これも助走期間が短かった次の阿部会長へのご配慮だったと後から思い至りました．

今，会長が７年間にわたって当時の会報の巻頭にお書きになられた「ごあいさつ」の文章を読み直してみますと，それぞれ，短い文章の中に折々の世相や政治経済状況をうかがい知ることができます．特に印象的だったのはバブル後の銀行の対応への鋭いご批判で経営者として苦労されてきた片鱗が伺われました．その世の中の状況と母校，工学部系同窓会，化学系同窓会，そして電化材化会まで結びつけて考えられ，折々の会の運営問題へのご意見，会員やクラス幹事の方々へのお願いと御礼の内容を拝見して，会長の目配りの行き届いていることに改めて感心致しました．

当時の電化材化では役員会でも，クラス幹事会でも，応化会との合併問題が毎年のように検討課題になっていました．材料化学科，応用化学科の形はすでになく，物質工学科化学系は材料化学・物性化学・有機化学の３講座体制になり，いずれは化学系が一つの同窓会になるのは衆目のみるところ一致していました．合併は早い方がよいという意見から，合併に消極的な意見まで種々ありましたが，問題は合併の時期とプロセスでした．当時の横浜電化材化会の役員会で意見も様々でしたが，私たちの最終的な判断基準は石井会長の「このような状況では熟し柿が落ちるように運ぶのがよいのです」と言う言葉

前列左から　石井　浩（昭和 18/9），萩原忠臣（昭和 8），相良　清（昭和 10）
後列左から　熊代幸伸（昭和 39），堀　雅宏（昭和 43），米屋勝利（昭和 37），阿部敏雄（昭和 24），松本四郎（昭和 17/9）

でした．

私事になりますが，5年ほど前に会長から久しぶりに頂いた年賀状が最後になりました．パーキンソン病のために不自由になられた手で頑張って書かれたことの分かるご丁寧な年賀状でした．次の年に私の方から賀状をお出ししなかったことが悔やまれます．

最後に，石井会長が7年間同窓会のためにご尽力くださったことに感謝しつつ，改めてご冥福をお祈り申し上げます．